



MAKE THE HEAVEN とは

理念

「思うだけでなく、考えるだけでなく、語るだけでなく、祈るだけでなく、動けば変わる」を合言葉に、笑い楽しみながら活動します。

目標

MAKE THE HEAVENの目標は、世界中の子供達の笑顔を増やす事、森を増やして当たり前前に雨が降る地球を残す事、そして、一人でも多くの人の心の中に元気や希望が増えるきっかけを創る事です。

「一人の力は小さいかもしれない。しかし決して無力ではない」という思いから、みんなの「はじめの一歩」をサポートし、行動する人を増やす事によって、誰かが誰かの為に動き出すのが当たり前になる世の中を創り、地球に「緑」と「笑顔」と「希望」を増やしていきます。

いろんな活動を、正義感でやるのではなく、笑い楽しみながら行動する事で「いつのまにか誰かの為になっていた」そんな新しい常識を創りながら、一人でも多くの人の心の中に希望の明かりを灯していきます。

活動概要

MAKE THE HEAVENは、未来への希望を増やすために2015年も「笑い楽しみながら」をモットーに活動しました。

○カンボジア支援プロジェクト

【MAKE THE HEAVEN CAMBODIA】

孤児院運営や奨学金サポートなど、カンボジアへの支援を通して、カンボジアと日本の心を繋ぎ、笑顔が増えるための支援を行いました。

○植林・間伐プロジェクト

【WONDERFUL WORLD 植林 FESTIVAL】

「緑」と「希望」いっぱいの地球を未来の子供達に届けるために、国境も年齢も性別も超え、皆で力を合わせて植林を実践しました。また、東北に緑の防潮堤を作るための育苗を行いました。

○フィリピン支援プロジェクト

【フィリピン超超超超超ハッピープロジェクト】

フィリピン台風災害の復興支援のため、フィリピンと日本を繋ぎフィリピンに笑顔と希望を届けるための活動支援を行いました。

MAKE THE HEAVENの足跡



2004
4月

NGO MAKE THE HEAVEN 設立

* 環境問題や海外支援に取り組んだ事をきっかけとして、世界の子供達の笑顔を増やしたいという熱い思いを持った仲間が集り、NGO MAKE THE HEAVENが誕生しました。

8月

カンボジア支援プロジェクト発足。

翌年、プノンペンにカンボジア支援プロジェクト事務局を設置

* 2014年までに、井戸掘り支援は880基の井戸を届ける事が出来ました。
また、カンボジアの子供達へ奨学金を贈る教育里親支援は延べ4,442人の子供達が学校に通えるようになりました。

2005
4月

植林プロジェクト発足。第1回中国内モンゴル植林ツアー開催

* 2014年までに、中国内モンゴル、ブラジル、南アフリカの3ヶ国と、北海道、和歌山、熊本で計19回の植林ツアーを行い、延べ2,217人に参加頂き、植林木数は約50万本となりました。

2006
1月

小豆島にてげんきのたねまきプロジェクト「げんきのたね夢楽」発足

* げんきのたね夢楽は、2011年5月末を持って6年間の活動を終了しました。
2011年までに延べ1万人以上の方が参加してくれました。

植林プロジェクトを「WONDERFUL WORLD 植林 FESTIVAL」と名付け、一元募金プロジェクトを開始

* 2014年までに、873名(チーム)の一元ヒーローが誕生しました。

2009
11月

当法人理事長が監督を務めるドキュメンタリー映画「107+1 ~天国はつくるもの~ Part2」が完成及び公開

* 2014年までに、同映画 Part1 と合わせて自主上映による観客動員数が約22万人になりました。
そして、2015年からはPART1、PART2ともに自主上映を終了し、DVD化して販売しました。
※映画配給、DVD販売元は有限会社クラブ・サンクチュアリ

2010
4月

間伐プロジェクト開始

* 2014年までに静岡、山梨、熊本、奈良、宮城、和歌山で計8回間伐ツアーを行い、延べ357人に参加頂き、758本のスギ、ヒノキを間伐しました。

5月

ロックバンドおかんと専属事務所契約

* 2013年4月 大阪城ホールでロックバンドおかん単独公演を実施し、約6千人が来場。
大阪城ホールの単独公演成功を持って、MAKE THE HEAVEN から独立しました。

8月

NGOから香川県の特定非営利活動法人(NPO法人)に認証。

* 現在は、神戸市の特定非営利活動法人(NPO法人)に認証済。

2011
1月

カンボジアくっくま孤児院運営開始

3月

東日本大震災復興支援プロジェクト「め組 JAPAN」発足

* 2014年までに延べ2万人以上のお手伝いクルー(ボランティア)が参加してくれました。

6月

送電線国有化のための署名募集開始

* 2012年10月までに179,820名分の署名を頂き、経済産業省に届けました。

8月

疎開プロジェクト洞爺パーク開催

* 2013年までに計3回(毎年の夏休み)開催し、延べ337人の親子が参加してくれました。

2012
1月

緑の防潮堤プロジェクト「希望の森もり大作戦~東北植林編~」発足

(WONDERFUL WORLD 植林 FESTIVAL とめ組 JAPAN の共同企画)
* 植林実現に向けて、ビニールハウスで約21,000本の苗木を育成しています。

2013
4月

カンボジア学校建設プロジェクト発足

* 2014年までに、8つの建物(小学校を6校と図書館、孤児院を一棟ずつ)を建設しました。

2014
1月

フィリピン支援プロジェクト「フィリピン超超超超超ハッピープロジェクト」発足

* お米やミシンの支援、ボランティアチーム「MY RIDE」の活動支援をしました。

8月

カンボジアの子ども達が日本に来る「天使が舞い降りる JAPAN TOUR FINAL」を開催

* 2014年までに計5回ツアーを行い、2014年はFINALイベントを行いました。

広島土砂災害復興支援「め組 JAPAN 広島」発足

* 2014年8月末から9月末まで活動し、2,500人以上のお手伝いクルー(ボランティア)が参加してくれました。

11月

フィリピンのバロ市で開催された
フィリピン台風災害一周忌の慰霊祭で竹あかりの装飾を実施
* 慰霊祭の会場に1,000本以上の竹あかりを飾りました。

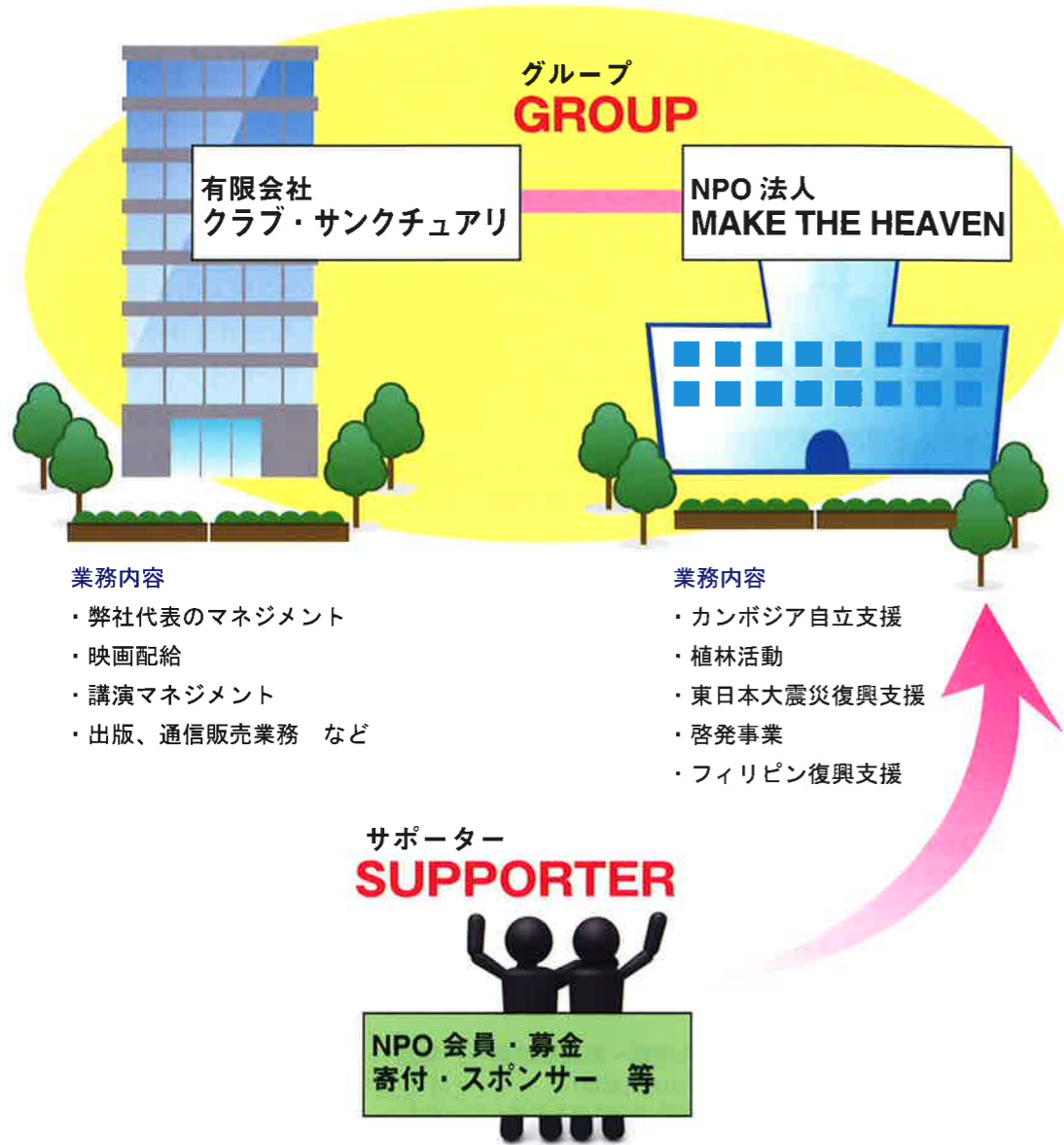
2015
9月

MAKE THE HEAVEN 主催イベント 1日だけの日本最幸の塾「諸君、狂いたまえ」を実施

* 約900名の方に参加いただきました。



MAKE THE HEAVEN 事業内容



MAKE THE HEAVEN 役員名簿

理事長	軌保 博光	有限会社クラブ・サンクチュアリ代表取締役
理事	中村 文昭	有限会社クロフネカンパニー代表取締役
理事	大嶋 啓介	有限会社てっぺん代表取締役
理事	奥芝 洋介	株式会社 NEXT LEVEL 代表取締役
理事	松岡 宏樹	株式会社俺ん家のめし代表取締役
理事	川島 肇子	特定非営利活動法人 MAKE THE HEAVEN 副理事長
理事	栂島 実	有限会社クラブ・サンクチュアリ取締役営業本部長
監事	二瓶 明	サンクチュアリグループ監査役・統括経理



カンボジア支援プロジェクト MAKE THE HEAVEN CAMBODIA

プノンペン市内・プノンペン近郊での支援活動

- くっくま孤児院運営
- パパママ大作戦！奨学金制度
- バサックスラム支援
- NCCLA 孤児院支援
- ごみ山の小学校へのお米支援・日本からの物資支援

プノンペン近郊 & プレイヴェン州プレイクラン村での支援活動

- 学校建設事業
- まいど大作戦！井戸掘り支援
- プレイクラン村支援
- スタディツアー & 現地コーディネーター & 日本語教師インターン



活動概況

今カンボジアでは、首都プノンペン等を中心に目覚ましい経済成長をしている一方で、学校や井戸の不足、貧富の差の拡大等により、雇用を得るために必要な「教育」が受けられない子供達がまだまだたくさんいます。

当プロジェクトは、お預かりしている支援金がどんな笑顔に変わっているのか「見える支援」を大切にしながら、教育支援やスラムや孤児院の自立支援等を通して、子供達の人生の選択肢が増え、日本にもカンボジアにもたくさんの笑顔が増えるきっかけを創り、お互いに成長していける活動をしています。

2015年度もたくさんのご支援を頂き、各プロジェクトを遂行出来ました。また、たくさんの日本人がカンボジアを訪れ交流の輪がさらに増え、さらに、くっくま孤児院の子ども達が日本に来た 2014年のジャパンツアーの収益により学校が一つ増え、日本にもカンボジアにもたくさんの笑顔を増やす事が出来ました。

足跡

※印は 2015年までの総計

2004年	バサックスラム支援開始
2004年	第1回スタディツアー開催 計25回のツアーを行い、延べ555人に参加頂きました。※
2004年	井戸支援開始 900基の井戸を掘りました。※
2005年	奨学金制度パパママ支援開始 4,869名の子供を支援しました。※
2005年	第1回ジャパンツアー開催 計5回のツアーを行いました。※
11月	カンボジアにプノンペン事務所設立
2006年	3月 プレイクラン村に学校を建設し、開校式を実施 6月 バサックスラム移転時の緊急支援実施
2007年	10月 第1回パパママツアー開催 2回行い、延べ32人に参加して頂きました。※
2009年	バサックスラム幼稚園建設
2010年	公立小学校1校建設・プレイクラン村の学校改築
2011年	くっくま孤児院運営開始・孤児院引越し
2011年	公立小学校1校建築
2011年	第1回くっくまツアー開催 計7回のツアーを行い、延べ169人に参加頂きました。※
2012年	第1回親子ツアー開催 計3回のツアーを行い、延べ37人に参加頂きました。※
2012~2013年	公立小学校2校ずつ(計4校)を建設し、開校式を実施
2014年	公立小学校に図書館設立 8月「天使が舞い降りるJAPAN TOUR FINAL」実施。孤児22人を日本に招致。
2015年	4月 公立小学校1校建設 (2014年JAPAN TOUR収益にて)

プノンペン市内・プノンペン近郊での支援

プノンペン市内の急速な経済発展により、貧富の差が激しくなり、生活が厳しい子や学校に通う事が困難な子ども達がまだまだ沢山います。孤児院の運営、奨学金制度、スラムと他孤児院の支援、ごみ山の小学校へのお米支援等、プノンペンでは主に子供に笑顔が増えるサポートをしています。



くっくま孤児院運営

2008 年から、カンボジアの孤児院で育った踊りの先生たちが、かつての自分たちと同じ境遇の孤児の子ども達を集めて孤児院を始めましたが、当時 24 人いた子ども達の食費を捻出する事も困難になり、孤児院解散の窮地に追い込まれていました。そこで、踊りの先生たちの頑張りを応援したい、素直で元気いっぱいな子ども達を応援したいと思い、2011 年から、MAKE THE HEAVEN CAMBODIA の孤児院として、先生たちと共同運営を開始しました。いろいろな環境で育ってきた子ども達は、くっくま孤児院で、毎日ご飯が食べられ、毎日水浴びが出来て、毎日学校に通えて、毎日寝る場所がある。そんな当たり前な事に心から幸せを感じ、日々笑顔で楽しく生活しています。その笑顔は、施設を訪れたみんなを幸せにしてくれています。

現在は 25 人の子ども達と、踊りの先生 1 人とスタッフ 3 人が、一緒に生活しています。元気な素直で優しい子ども達と、その子ども達を愛して一生懸命運営しているカンボジアの大人達やメイクのスタッフ、ここには素敵な笑顔が溢れています。

2011 年からは、くっくまファミリーの各サポートコースや、毎月一定額の寄付を通じてご支援いただくマンスリーサポーター制度をスタートして、毎月の食費や生活全般・教育の支援を行っている他、カンボジア国内で伝統舞踊を披露したり、手作りのアクセサリーを日本で販売し、自分たちの力でも孤児院を運営出来るようにサポートしています。また、2011 年 11 月には、多くのご支援を頂いて新しい土地と建物に移転し、自給自足を目指して庭で子ども達が野菜やニワトリを育てています。2012 年はソーラーパネルの設置を行いました。今後も子ども達を応援する家族を増やしていきます。2014 年はジャパンツアーを行い、日本各地で伝統舞踊を披露し、大成功を収めることが出来、2015 年にツアー収益で小学校建設をしました。

※くっくま孤児院の正式名称：CCMHA (Cambodia's Children Make the heaven Association) 孤児院



くっくま孤児院運営費内容

運営費：毎月約 3,000 \$

内訳：土地レンタル代 500 \$ ・お米 500 キロ ・おかず & 調味料 1,000 \$ ・学校費用 (試験代・英語学校など) 500 \$ ・スタッフ給料 (踊りの先生・調理スタッフ) ・病院代・洋服や制服等の衣類・伝統舞踊の楽器や衣装・歯ブラシやせっけん等の生活用品・文房具等

※水道・電気代は、子ども達がカンボジアの伝統舞踊を踊って頂いた募金で支払っています。



パパママ大作戦！奨学金制度

2005 年の 13 人からスタートしたパパママ大作戦は、2015 年で 11 年目を迎え、パパママの皆様のおかげで、プノンペン市内 & 近郊の貧困家庭の子ども達の学校に通いたいという夢が叶えられ、安心して勉強を続ける事が出来ています。奨学生の写真付報告書や、本人からの手紙のお届け等、日本のパパママとカンボジアの我が子が繋がり、家族のような温かい心の交流が出来るようにお手伝いをさせて頂いています。また、新学年がスタートする 10 月 (2015 年のみ 11 月) にはパパママが出席出来る認証式を行っている他、パパママがカンボジアを訪ねてきてくれた際には、いつでも我が子に会う事が出来るようにコーディネートを行っています。2015 年度は、継続も合わせて 427 人の子ども達がこのプロジェクトで学校に通う事が出来ました。



バサックスラム支援

カンボジアを支援をするきっかけとなったのが、バサックスラムとの出会いでした。バサックスラムには 2005 年から支援を行っており、寺子屋の食費 (米・おかず) や、幼稚園の校舎設立、伝統舞踊の衣装や化粧品の支援等を行った他、緊急時の医療費等のサポートも必要時に行いました。子ども達は、スラム内のごみ拾いをしたり、伝統舞踊の練習をしたり、日々自分たちに出来ることを精いっぱい頑張っています。

■米・おかず 共に、一口 20,000 円ずつの支援をしています。



NCCLA 孤児院支援

プノンペン市内にある NCCLA 孤児院を運営している夫妻との出逢いを、私たちカンボジアスタッフは奇跡と呼んでいます。素晴らしい 2 人から色々な事を学びながら、子ども達への支援と交流を続けています。定期的に物資を送ったり、スタディツアーの際に夫妻が運営するレストランやクッキー屋さんを訪れたりする事で、自立支援を支えていました。2015 年、NCCLA 孤児院の子ども達は、大学応援基金によって計 6 人が大学に進学しています。また、多くの子ども達が大きくなってきてアルバイトなどをするようになっています。そこで、2014 年 12 月に NCCLA 孤児院は解散という形を取り、夫妻はレストラン運営をしながら、残った小さな子ども達の世話を引き続きしていきます。2014 年 12 月にはメイクザヘブンより 2 人への最大の尊敬の意を込めて、解散式を行いました。夫妻も子ども達も感謝の涙で、会場は優しい涙に包まれました。今後も大学応援基金と共に、一緒に成長していきたいと思っています。



ごみ山の小学校へのお米支援・日本からの物資支援

スタメンチャイ地区にある、今はもう使われなくなったごみ山の中に小学校があります。2015 年も、そこへ通う子供達に、毎月 1,500 キロ分のお米の支援をし、子ども 1 人につき 5 キロずつ手渡しました。今後は、村のおかゆ支援も視野に入れて、家族みんなが幸せになる支援を続けていきます。また、スタディツアーの際に日本から支援物資をお預かりし、古着や文房具等を各支援先の子供達へ渡しています。



プノンペン近郊 & プレイヴェン州プレイクラン村での支援活動

村支援で最重要課題が、「自立支援」に向けての取り組みです。

はじめの一歩をお手伝いする気持ちで、学校建設や井戸掘りやフェアトレード商品の作成等を、村の方たちと協力し合い、共に勉強を重ねながら支援しています。



学校建設事業

カンボジアでは、国の経済の発展と共に、教育にも力を入れ始めています。その為プノンペン市内を中心に、私立学校や塾がどんどん出来ており、ある程度家族の収入が安定している子供たちはしっかり勉強できる環境が整ってきています。しかし、地方では、学校に通いたくても通えない子供たちがまだまだ沢山います。学校や、教室が足りず、青空教室のような環境で勉強している子供たちもいます。学校で勉強が出来ること、学校で友達と一緒にのびのびと遊べることが、どれだけ幸せで楽しいことなのかを、カンボジアの子供たちは伝えてくれます。私たちは、文部省から依頼のあった場所を実際に視察して、主に校舎の建て替え・建て増しを中心に、学校の先生たちとミーティングをして学校建設の場所を決定していきます。

2014年までに、小学校6校と図書館1棟を建設。

さらに2014年のJAPAN TOURの収益にて、カンボジアで小学校が1校増えました。くっくまの子どもたちが頑張って踊って、日本の皆さまと協力し合って建てられた学校。2015年4月の落成式では、カンボジアの他の子どもたちの為に、くっくまの子どもたちが村の子どもたちの前で踊って歌いました。次は村の子どもたちが頑張って勉強する、そんな素敵な相乗効果を得られることを願い、今後もカンボジア国内での笑顔を繋げていきたいと思っています。



まいど大作戦！井戸掘り支援

2004年のカンボジア事務所設立当初から2012年までの8年間、皆様の想いが詰まった井戸をプレイヴェン州やシェムリアップ州の農村地域を中心に合計880基を届けてまいりました。

現在は、新たな井戸掘り募集を少なくし、今までに掘った井戸の定期的な水質検査を中心としたメンテナンスを行っています。(2015年は20基作成)

今後も基準値をクリアした安全な水を提供し、村の家族がこれからも安心して井戸を使用することが出来るよう支援を続けていきます。



プレイクラン村支援

プレイクラン村を始めて訪れた際に、子供達が民家の軒下でぎゅうぎゅうになって勉強している様子と出会った事をきっかけにして、2006年にプレイクラン村に村人の手作りで3教室の校舎を建設しました。基本的に幼稚園～小学校3年生レベルまでの子が通い、4年生からは公立の小学校に通っています。2010年には、支援によって校舎の建て替えを行い、レンガやコンクリートで建てられた校舎が完成しました。2011年からは、毎月7回、学校の子供達におかゆ給食を提供してきました。(2013年10月迄)そして、学校に遊具をプレゼントしたり、古い教室の建て替えをしたり、定期的に文房具等の支援も行っています。2014年は、学校運営が出来るように養鶏プロジェクトを発足したり、公立小学校の先生を村に招待し、先生たちの教授法スキルアップなどに取り組みました。2016年より、おかゆ給食提供を再開する予定です。スタディツアーでは、毎回村でのウルルン滞在・ホームステイをスケジュールに入れていきます。



スタディツアー & 現地コーディネーター & 日本語教師インターン

これまで、2004年から述べ25回のスタディツアーを行いました。「まずは行ってみよう。」「まずはやってみよう。」「きっとその先に何かがあるはず。」を合言葉に、2015年も開催し沢山の方がカンボジアに来て、各施設の子供達との交流や、村でのホームステイ体験等を行いました。12月の第25回ツアーでは、活動10周年記念パーティーを各施設の子供達と参加者さんで行い、盛り上がりました。カンボジアの子供達と一緒に過ごす事で、今を一生懸命生きる子供達の笑顔に癒され、刺激をもらい、最終日には何人もの参加者さんが涙を流して帰っていきます。

スタディツアー以外にも、くっくまツアーや親子ツアー、友人を連れ立ってのミニツアーや、個人旅行の延長でのカンボジア訪問等のコーディネーターも随時行い、学生さんの卒業旅行や、会社での社員旅行にも利用して頂きました。また、日本語教師のボランティアが子供達へ日本語教室を開催したり、美容師さんが青空カットをしてくれたり、パルーンアートや似顔絵を書いてくれたりする等、訪問者の特技を活かし、カンボジアの子供達も喜ぶ交流を行いました。



スタディツアー参加者の声

今回、このツアーに参加するまでに、何度も悩みましたが、最終日を迎えるにあたり、参加して正解でした。

くっくまの子供達、バサックの子供達、村の子供達、たくさんの子供達と触れ合い、勇気と元気と生きる楽しさを教えてもらいました。仕事や子育ての事で悩んでいる自分がちっぽけに思えてきました。日本では当たり前のもので、カンボジアではそうではない事ができ、今回参加して良い経験ができました。今回のツアーを企画、お世話頂きました皆様に感謝します。

(40代女性)

プレイクラン村は、とてもカンボジアの原点の暮らしや生活が味わえる所でよかったです。

本当に、いつも日本で時間や生活におわれてることを忘れさせてくれて、人間として大切なことを感じさせてくれ、自分らしくいられる安心できる場所でした。日本で生活していると、自分を変えることはとても難しい事だけど、カンボジアに来てこのツアーに参加すると、自然にカンボジアが後押ししてくれて気持ちを自分らしく素直になれます。このツアーの良さは、いろんな仲間が、いろんな自分を捜しに来て、皆が自分自身に前向きになって、自分らしく生きようと思える、ハッピーになれる、本当に素晴らしいツアーです。

(40代女性)

このツアーに参加して良かったです。たくさん遊んでたくさんのお話を聞きました。1日1日がすごく早くて充実していました。どんどん楽しくなってきた、カンボジアが好きになりました。村とかに行くと、みんなで「日本の方がきれい。」とか言うけど、そこで暮らしている人がいて、その人達はとても楽しそうで、何が良いのかよく分からなくなりました。

でもそれを考えられて私は良かったです。どの子ども達もすごくかわいくて感動しました。裏表ない、心の底から笑顔の子たちばかりです。ごい、いいなと思いました。私も将来は人の為に働きたいです。クメール語や踊りを練習してまたカンボジアに来たいです。ありがとうございました。

(中学校1年生 女の子)

日何かにイライラし、グチをこぼし、悩んでた自分がとってちっぽけに見え、またもっと前向きに笑って楽しく生きていきたいと強く思うことができました。カンボジアでの8日間はイライラなんて少しもなくて、とにかく楽しくて、思い返してみても本当に笑ったな一つ!!こんな気持ち初めてで、この感情をずっと忘れたくないし、今回出逢ったたくさんの人達との縁を一生大切にしたいと強く思います。今回の出会いやたくさんのお話を聞かずに、日本に帰ってから自分のやるべきことを一生懸命にやり、カンボジアの子供達に負けられない位バワフルに生きてやる!!と決めました。

そしてクメール語を習得してまた戻ってきたいです。今回のツアーで私は一歩前に進めた様な気がします。たくさんのお話を聞かせてくれた、カンボジアでの出会い全てに心から感謝します。本当にありがとうございました。

(大学1年生 女性)

スタディツアー参加者の声

今回、このツアーに参加するまでに、何度も悩みましたが、最終日を迎えるにあたり、参加して正解でした。くっくまの子供達、バサックの子供達、村の子供達、たくさんの子供達と触れ合い、勇気と元気と生きる楽しさを教えてもらいました。仕事や子育ての事で悩んでいる自分がちっぽけに思えてきました。日本では当たり前の事でも、カンボジアではそうではない事ができ、今回参加して良い経験ができました。今回のツアーを企画、お世話頂きました皆様に感謝します。

(40代女性)

ブレイクラン村は、とてもカンボジアの原点の暮らしや生活が味わえる所よかったです。本当に、いつも日本で時間や生活におわれていることを忘れさせてくれて、人間として大切なことを感じさせてくれ、自分らしくいられる安心できる場所でした。日本で生活していると、自分を変えることはとても難しい事だけど、カンボジアに来てこのツアーに参加すると、自然にカンボジアが後押ししてくれて気持ちを自分らしく素直になれます。このツアーの良さは、いろんな仲間が、いろんな自分を捜しに来て、皆が自分自身に前向きになれて、自分らしく生きようと実感できる、ハッピーになれる、本当に素晴らしいツアーです。

(40代女性)

このツアーに参加して良かったです。たくさん遊んでたくさんを知りました。1日1日がすごく早くて充実していました。どんどん楽しくなってきた、カンボジアが好きになりました。村とかに行くと、みんなで「日本の方がきれい。」とか言うけど、そこで暮らしている人がいて、その人達はとても楽しそうで、何が良いのかよく分からなくなりました。

でもそれを考えられて私は良かったです。どこの子ども達もすごくかわいくて感動しました。裏表ない、心の底から笑顔の子たちばかりです。ごいな、いいなと思いました。私も将来は人の為に働きたいです。クメール語や踊りを練習してまたカンボジアに来たいです。ありがとうございました。

(中学校1年生 女の子)

日何かにイライラし、グチをこぼし、悩んでた自分がとってちっぽけに見え、またもっと前向きに笑って楽しく生きていきたいと強く思うことができました。カンボジアでの8日間はイライラなんて少しもなく、とにかく楽しくて、思い返してみても本当に笑ったなーって！！こんな気持ち初めてで、この感情をずっと忘れたくないし、今回出逢ったたくさんの人達との縁を一生大切にしたいと強く思います。今回の出会いやたくさん経験の忘れずに、日本に帰ってから自分のやるべきことを一生懸命にやり、カンボジアの子ども達に負けない位バワフルに生きてやる！！と決めました。

そしてクメール語を習得してまた戻ってきたいです。今回のツアーで私は一歩前に進めた様な気がします。たくさん刺激を与えてくれた、カンボジアでの出会い全てに心から感謝します。本当にありがとうございました。

(大学1年生 女性)



植林・間伐プロジェクト

WANDERFUL WORLD 植林 FESTIVAL

- 一円募金
～一円五で世界を緑だらけにしちゃおう大作戦～
- 中国内モンゴル植林
- 宮城道植林
- 東北植林プロジェクト (め組 JAPAN との共同企画)
- 「希望の森もり大作戦～東北植林編～」
- 間伐プロジェクト



活動概況

今、世界中で気候の変化により雨が減っています。人間がこのままの生活を続けた場合、更に雨が減って、食糧生産量は減り、食糧危機が起こり、結果、水の奪い合いの戦争が起こると予想されています。これからは、人々が競いあったり奪いあったりするのではなく、心をつなげて力を合わせる時代だと思います。

当プロジェクトは、「緑」と「希望」いっぱいの地球を未来の子供達に届けるために、国境も年齢も性別も超えてみんなで力を合わせ、地球に一本でも多くの木を増やす活動、一本でも多くの自然林を守る活動、そして、一人でも多くの環境意識を高めて動き出す人を増やす活動をしています。

2015年は、『希望の森もり大作戦～東北植林編～』で「森の防潮堤」を作る植林のために広葉樹の育苗を引き続き行いました、そして、5月には岩沼市主催の「千年希望の丘植樹祭」に植林ツアーを組んで参加させて頂き、育ててきた苗木を植林することができました。また、4月と9月には内モンゴル植林ツアーを今年も行った他、5月は兵庫県丹波市で間伐ツアーを行いました。各ツアーを通してたくさんの人に参加頂き、たくさんの人と力を合わせて笑い楽しみながら「緑」と「希望」を増やす事が出来ました。

足跡

- 2005年
 - 4月 第1回中国内モンゴル植林ツアー
*2014年までにツアーを計12回開催しました (2014年は4月と9月に開催)。
- 2008年
 - 11月 植林事務局をWANDERFUL植林FESTIVALと命名し、新たに事務局を設置。同時に一円募金プロジェクト開始
*2014年までに一円ヒーローが873名となりました。
- 2009年
 - 6月 第1回ブラジル植林ツアー開催
 - 8月 第1回南アフリカ植林ツアー開催
*2010年11月に第2回南アフリカ植林ツアーを開催しました。
- 2010年
 - 3月 国内植林ツアー開催
*2014年までに北海道、和歌山、熊本の3箇所で開催しました (2014年は北海道で開催)。
 - 4月 国内間伐ツアー開催
*2014年までに、宮城、静岡、奈良、和歌山、熊本の5県で計8回の間伐ツアーを開催しました。
- 2012年
 - 1月 東北植林の準備開始
*9月に『希望の森もり大作戦～東北植林編～』と名付け、スポンサーや育苗の募集を開始。
2013年からは、宮城県石巻市で活動している『NPO法人いしのまき環境ネット』様にご協力頂いています。
- 2015年
 - 約25,000本の育苗をしながら、新たに20,000粒の種を拾い播種箱(プランター)に種を蒔きました。
また、約2年半育てた苗木2,500本を『岩沼市千年希望の丘植樹祭』にて植樹しました。

植林プロジェクト概要

どうしたら当たり前前に雨が降る地球を未来の子ども達に残せるのだろうか？その答えの一つが植林でした。木を植えると、雲が出来て雨が降ります。そこで、2005年に第1回中国内モンゴル植林ツアーを開催しました。そして、2008年には「WONDERFUL WORLD 植林 FESTIVAL (以下ワンフェス)」と名付けて、新たに事務局を設置し、「一円玉で世界を緑だらけにしちゃおう大作戦」を開始しました。2012年からは東日本大震災の津波で被害のあった福島県から青森県の沿岸部に森の防潮堤を創りたいという想いで、東北で広葉樹の苗木を育て始めました。2015年は、一円募金活動・東北植林の苗木のオーナーさん募集した他、5月に宮城県岩沼市の千年希望の丘植樹祭にて植林ツアーを行いました。また、4月と9月には中国内モンゴルで植林ツアーを行いました。



一円募金 ～一円玉で世界を緑だらけにしちゃおう大作戦～

ワンフェスでは、苗木代として日本で一番小さなお金の一円玉を集めています。一円募金を通して、「一人ひとりの力は微力でも決して無力ではない」、「みんなで力を合わせれば、大きな力に変わる」という事を伝えています。そして、一円玉を見るたびに「これでまた緑が増える！」という「一円玉＝緑」の意識をまずは日本から広めています。また、一人のヒーローが世界を救うのではなく、一人ひとりが世界を変えるヒーローになろう！という想いから、一円玉を集めてくれる人を「一円ヒーロー」と呼び、一円マン、一円レディ、一円レンジャー、一円ステーションの4つのヒーローを募集しました。

2015年の実績 登録人数：6人(チーム) 募金額：69,761円
2015年までの累計 登録人数：879人(チーム) 募金額：9,441,292円



中国内モンゴル植林

2015年4月と9月に、第13回、第14回中国内モンゴル植林ツアーを行いました。4月のツアーでは、中校生が参加し、若い世代にも大地に木を植える喜びや楽しさを伝える事が出来ました。また、「日中友好交流会ハッピー植林フェスティバル」を開催し、日中合わせて278名が参加して国際交流を行いました。9月のツアーでは、数年前までは一面沙漠だった植林地に草原が広がって、昆虫や爬虫類だけでなく野鳥も帰ってきて、鳥の鳴き声や虫の姿をたくさん見る事が出来ました。5、6羽の鷹が植林地のはるか上空を旋回している姿は、『木を植えてくれてありがとう』と伝えられたようでとても嬉しい光景でした。2015年のツアーでは、4月と9月ともに現地の中学生30名と一緒に植林を行う事が出来て、国籍の壁を越えて日本人と中国人が1つになり、共に地球を大切にしていこう気持ちを共有する事が出来ました。



* 第13回中国内モンゴル植林ツアー：ツアー参加者14名+交流会261名+中国の子供たち30名、ポプラとスナナツメを520本植林
* 第14回中国内モンゴル植林ツアー：ツアー参加者20名+中国の子供たち30名で、ポプラとスナナツメを935本植林

宮城植林

2015年5月30・31日に、東日本大震災後に MAKE THE HEAVEN の活動拠点としてご縁を頂いた宮城県で、これまで東北で育てた苗木を植樹する植林ツアーを開催しました。5月30日は、岩沼市主催の「第3回 岩沼市希望の丘植樹祭」に団体枠で植樹に参加し、「希望の森もり大作戦」で育てた苗木を2500寄付し、みんなで植樹しました。また、宮城県の被災した牡鹿半島で宿泊することで当時のことを知ってもらい、翌日は苗木のお世話の体験をしていただきました。1泊2日のツアーで未来の森の堤防になる植樹とその苗木を育てる体験してもらい、自然と被災地に希望を残すことができ、参加者さん同士も深く繋がるツアーとなりました。

第1回 希望の森もり植林ツアー 2015 in みやぎ：
ツアー参加者20名。育てた苗木を2,500本寄付。(植樹祭全体は、参加者6000名、植林本数50,000本)



東北植林プロジェクト (め組 JAPAN との共同企画) 「希望の森もり大作戦～東北植林編～」

2011年10月、横浜国立大学名誉教授の宮脇昭氏が『瓦礫を使った森の防潮堤プロジェクト』を打ち出しました。有害な物を省いた瓦礫を使って土手を築き、深根性・直根性の常緑広葉樹を混植・密植で植林する計画です。森の防潮堤は防潮堤本来の役割を果たすだけでなく、津波が防潮堤を乗り越えた場合でも、津波の速度を和らげて人や家屋・家財の流出を防ぎ、被害を最小限に抑えられる事を知りました。

ワンフェスはこのプロジェクトに賛同し、2012年1月から東北植林の準備を始め、9月には「希望の森もり大作戦～東北植林編～」と名付け、め組 JAPAN との共同プロジェクトとして活動しています。現在、樹木の種を拾い、常時25,000本の苗木を育てています。2015年は、25種類・約25,000本の苗木を育てながら、新たに20,000粒以上の種を拾いました。種拾いでは参加者を募り、一緒に山に入って種を取るための母樹を探したり、山を散策したりして自然に触れてもらう事が出来ました。また、活動を遠くから支えてくれる『苗木のオーナー制』では、2015年に新たに34名のオーナーが増え、延べ244名の方から応援をいただいております。



間伐プロジェクト

今、日本の森はほったらかしにされて元気が無くなっている事、それが原因で大雨の時に土砂崩れなどの災害が起きている事、そして、森の元気を取り戻すにはスギやヒノキが元気に育つように間伐をして、森に光を届ける必要がある事を知りました。ワンフェスではこの事実を知り、みんなが出来る間伐方法として NPO 法人「森の蘇り」のきらめ樹間伐を取り入れました。一人でも多くの人に森の現状を伝える事で、森の手入れするリーダーが各地に増えたり、国産材や森で働く方々の支援に興味を持ってもらう「最初の一歩」のきっかけを提供しています。

間伐ツアーでは、NPO 法人「森の蘇り」の指導のもと、日本の森、世界の森の現状と間伐の基礎を学び、実際に森に入ってきたきらめ樹間伐を実践しています。2015年は、2014年に水害のあった兵庫県丹波市で間伐ツアーを行いました。また、きらめ樹間伐だけでなく、夜はキャンプファイヤー&パースカフェを開催し、参加者さんたちが「自分の生まれてきた意味」や「生まれてきた神秘」に触れて心も癒されました。間伐ツアーでは、2歳の子供から61歳おばあちゃんまでが参加し、初めはオドオドときらめ樹間伐をしていた子供達も、終わる頃には自由に山を上り下りしていたり川で遊んだり、自然と繋がり森も人も元気になるツアーとなりました。きらめ樹間伐は、チェーンソーや重機を使わず、ノコギリだけで楽しく間伐する事が出来るため、子供からおじいさん、おばあさんまで、幅広い年齢の方々に参加して頂き、たくさんの子供達の笑い声が森の中に響きました。また、間伐ツアーは植林ツアー同様、大地と人が繋がり全国各地の参加者が繋がるきっかけとなり地元へ帰ってからの最初一歩に繋がっています。今後も、より多くの人に日本の森・世界の森の現状を知ってもらい、森を守り、人の元気になるプロジェクトを進めていきます。

※兵庫間伐ツアー：
18名の参加者と42本のきらめ樹間伐しました(間伐概算面積450㎡)



植林プロジェクト参加者の声

【内モンゴル植林ツアー】

なんとなく観光っぽい用もあることにも惹かれつつ、興味があった植林に参加させていただきました。イメージしていたものと違って単にひたすら木を植えるのではなく、ツアーのそこかしこに、地球や人に対する熱い想いやおもてなしの精神などが伝わってきて、今まで参加したどのツアーよりももちろん、たぶん一生をと通じて一番心に残るツアーだったのではないかと思います。木がきちんと根付き、育つような工夫をされているところ 1 つとっても大きな愛情を感じました。それから、私自身は、人間関係が苦手という古抱えがあるので、積極的にお話することはなかなかできない性格ですが、その場限りではない「つながり」を大事にしてくださるツアーに参加させていただいて本当にうれしかったです。大変お世話になりました、ありがとうございました。(20代 女性)

地平線に沈む夕日、満天の星、広大な沙丘、青空…大自然に囲まれ、非日常を味わい心も解放されました。土に触れ、大地と繋がり、みんなと心も繋がりがあわせな時間を過ごすことができました。やっぱり行ってよかった！ありがとうございました。(40代 女性)

【兵庫間伐ツアー】

子供(9歳)は、きらめきが一番楽しかったそうです。皮をむくのが、楽しかった。また、やりたい。きらめきで剥きたてのみずみずしい樹肌。樹液が日に輝く美しさ。森でみんなの歓声を聞いて、森が喜んでる。植えたおじいちゃんたちが喜んでる。本当に、私たちも森も地球もみんな喜んでるきらめ樹。もっと日本中に広めたいと思いました。また、パースカフェの出産の映像。自分の出産を振り返り、わが子がさらにいとおしくなりました。(30代 女性)

皮剥きしたあと、ホントに森も明るくなって、森もみんなもキラキラしてたことが印象的でした。夜は鹿の声を聞くことができ、明け方は鳥の声で目が覚めたことは初体験でした(今住んでるところでは体験できないので)。間伐が終わった後は、山の景色を見たときに、ここもお手入れが要るんだろうな、とそんな見方をするようになりました。もっときらめ樹間伐したくなりました～(40代 女性)

【宮城植林ツアー】

植樹、植林、というけれど、そのためにはどんなに多くの知恵と働きがあるのか体で感じた。余生を(笑)森と海にささげたいと、できることしかできないけれど、いつもそういう活動に細くてもつながっていたいとの思いが一層強くなりました。チャンスありがとう。(60代 女性)

植樹祭に思っていたより、たくさん(5000人?)の人たちが参加していたことが印象的でした。それだけ未来につなげていこう、動こうとしている人たちがいるんやなああと嬉しく思いました。また、未来の防波堤のお手伝いできたことが嬉しかったです。植樹だけでなく、苗のお世話にも参加させてもらったからこそ、より一本一本の木たちへの想いが強くなりました。そして、参加していた年齢層も広く、いろんな職種の方がいたので、そんな方たちと、語り合うことができたのは本当によかったです。(10代 女性)



フィリピン支援プロジェクト

フィリピン超超超超超ハッピープロジェクト

- MY RIDE への支援
- MY RIDE ホーム建築大作戦



活動概況

2013年11月8日、巨大台風「ヨランダ」がフィリピンのレイテ島及び近隣の島々を襲いました。この台風によりレイテ島海岸部は甚大な被害を受け、フィリピン国保健省の報告では推定死者数約6,000人、負傷者約26,000人、被害者世帯は約100万世帯(500万人)とされています。

MAKE THE HEAVENは、2014年1月2日にレイテ島のタクロバン市に入り支援活動を行いました。そこでは、台風の被害だけでなく、貧困問題もあるということを知りました。しかし、そこで生活している子ども達の瞳は本当にキラキラ輝いていて、一生懸命に生きる姿を見て、フィリピンの人達とずっと関わって行きたいと思い、フィリピンと日本を繋ぎたくさんの笑顔と希望を届ける「フィリピン超超超超超ハッピープロジェクト」を発足しました。

2015年は、9月にMY RIDEのリーダーエマと、エマの師匠でもありメンターでもあるタズさんを日本に招待させて頂き、9月21日にエマのトークライブを行いました。また、翌23日に開催した講演イベント「ハナハナスペシャルランド1日だけの日本最幸の塾『諸君、狂いたまえ』」にタズさんに講師として講演して頂きました。

※タズさんはてんつくマンがフィリピンの吉田松陰と呼んでおり、フィリピンの貧困な子ども達や被害にあった孤児の子どもやギャングになりそうな子ども達に勉強を教え、愛を伝え、ボランティアリーダーを次々に育てている指導者で、中には8歳や14歳でNGOを立ち上げた子ども達もいます。

足跡

- | | |
|----------------------|--|
| 2014年
1月2日
～6日 | 第一回フィリピン超超超超超ハッピーツアー開催、フィリピン支援を開始
*現地ボランティア団体の手伝い、物資の運搬・配布、子ども達との交流などをしました。 |
| 2月 | フィリピンのボランティアチーム「MY RIDE」の支援活動を開始
*お米の支援とミシンをプレゼントしました。 |
| 4月4日
～7日 | 第二回フィリピン超超超超超ハッピーツアー開催 |
| 5月20日
～25日 | 第三回フィリピン超超超超超ハッピーツアー開催 |
| 6月 | ベディーキャブキャブ大作戦開始
*2014年は20台のベディーキャブ支援を頂きました。

MY RIDE ホーム建築大作戦開始
*2014年は188万円の支援金をお預かりしました。 |
| 6月20日
～28日 | 人生なんでもあり!! トークライブツアーを実施
*MY RIDEのリーダーエマを日本に招待して、全国9都市でトークライブを行いました。 |
| 7月26日
～30日 | 第四回フィリピン超超超超超ハッピーツアー開催 |
| 11月5日
～10日 | フィリピンライトアップザハートツアーを実施
*計30名で慰霊祭の準備などを行いました。 |
| 11月8日 | パロ市で開催された台風災害一周忌の慰霊祭で竹あかり演出を実施
*日本の竹あかり演出「ちかけん」やフィリピン在住の日本人の方々と協力して行いました。 |
| 2015年
9月21日 | エマトークライブ in 神奈川県川崎
*30名の方にご参加いただきました。 |
| 9月23日 | ハナハナスペシャルランド
一日だけの日本最幸の塾「諸君狂いたまえ」にタズさん出演
*約900名の方にご参加頂きました。 |

MY RIDE への支援

フィリピン支援が始まり、何をすることがフィリピンの人たちにとって一番の支援になるのかを考えていたときに、ボランティアチーム「MY RIDE」と出逢いました。

MY RIDE のメンバーは 11 歳から 22 歳の若者たちで、みんな孤児や台風の被災者なのですが、自転車に乗って物資を配ったり、食べ物が不足して栄養失調になっている子ども達に給食支援を行ったり、カウンセリング、ビデオ上映、交流会などを行って、子ども達に希望や勇気を届けています。そして、ただ支援するだけでなく、家や身寄りの無い子ども達に「一緒にボランティアをしよう」と誘って、みんなと一緒に生活をしています。その MY RIDE のリーダーがエマです。

エマはスラム街で育ち、7歳の時から深夜労働をするような貧しい生活をしていましたが、ダズさんという師匠に出逢いボランティア活動を通して様々なことを学び、今はペイフォワード（恩送り）の精神でたくさん子ども達に希望を届けながら、MY RIDE のメンバーを引っ張っています。エマは「人を救えるのは人」と言っています。そして、エマに助けられて学んだ子ども達が、また人を助け育てています。MY RIDE は、まさに MAKE THE HEAVEN の活動理念「動けば変わる」を実践していました。

そこで、MY RIDE の支援をすることがフィリピンの人たちへの一番の支援になると思い、MY RIDE への支援を開始しました。



MY RIDE ホーム建築大作戦

エマたちに何が一番必要か聞いた時、MY RIDE がタクロバンですっと活動を続けられるように、拠点となる場所が欲しいと答えていました。そして、2014年6月に念願だった土地を購入できました。

しかし、土地を購入後にそこには 23 世帯の家族が不法居住していることが分かりました。

エマに確認すると、たくさんの不法居住者がいることも知っていて、それでこの土地を選んで購入したと言いました。どういことなのか詳しく聞くと、エマはこの土地を見たときに、「この不法に住んでいる人達と力を合わせて、ここで素晴らしいコミュニティを創ろう。子ども達は僕たちが教育して、親にはいろいろ助けてもらう。この土地を買って一緒に暮らせば、この人達は不法居住者ではなくなり、安心して住めるようになる」というビジョンを描いたと語りました。不法居住者が住んでいるこの土地がエマたちにとってはベストな場所で、今とてもワクワクしていると目をキラキラさせているエマに脱帽し、彼らから大きな愛を学ぶ為にもタクロバンにエマ達の本拠地の施設をプレゼントしたいと思いました。

この施設が出来たら、たくさんの方が育ち、孤児になった子ども達もここで安心して生活できます。台風が来た時には近所の人達の避難所にもなります。そして、日本人のツアーが来たらここに泊まる事が出来て、フィリピンの松下村塾をタクロバンにも造ることが出来ます。

2014年11月に台風災害一周忌の慰霊祭でフィリピンを訪れた際に、購入した土地で暮らしている方々と交流会することができました。MY RIDE の子ども達と住民の方が本当に良い関係を作っていることが見てすぐに分かりました。まるで親戚のように会話をしていたり、助け合っている様子がとても印象的でした。住民の方々が住んでいた家を自ら進んで壊し、移築して、整地に協力している姿は、他の不法居住地ではありえないことです。MY RIDE の子ども達も、2014年夏頃まではテントでの生活をしていましたが、11月には自分たちで木材等を買ってきて仮住宅を建てて住んでいました。

2015年、アクティビティスペース（活動する広場）が完成してそこで、地域の子供達に勉強を教えたり、リーダー教育を行ったりしています。また、トイレも完成しました。*



ツアーイベント活動報告

たくさんの人と人々が繋がり、同じ志を持つ仲間が出来る事で、その後の人生が大きく変わります。MAKE THE HEAVENでは、「1人の100歩よりも100人の1歩」で世界を変えていくために、毎年多くのツアーやイベントを開催し、最高の仲間と出逢える場を提供しています。

2015年も、参加した人がただ感動するだけではなく、新たな一歩を踏み出せるツアーやイベントを開催し、多くの出逢いやきっかけを提供する事が出来ました。

2015年のツアー・イベント活動実績

3月29日～4月5日	第6回 カンボジアくっくまツアー
4月14日～4月19日	第13回 中国・内モンゴル植林ツアー
5月16日～5月17日	きらめ樹キャンプ in 丹波
5月30日～5月31日	第1回 希望の森モリ植林ツアー 2015
8月5日～8月12日	第7回 カンボジアくっくまツアー
8月24日～8月31日	第24回 カンボジアスタディツアー
9月11日～9月16日	第14回 中国・内モンゴル植林ツアー
9月21日	エマトークライブ in 神奈川県川崎
9月23日	ハナハナススペシャルランド 1日だけの日本最幸の塾『諸君、狂いたまえ』
11月16日～11月20日	第3回 カンボジア親子ツアー
12月23日～12月31日	第25回 カンボジアスタディツアー



MAKE THE HEAVEN 会員・募金・スポンサー サポートのお願い

MAKE THE HEAVENでは、支援の内容に応じて、いろいろなサポート方法をお願いしております。あなたが応援したい活動のサポート、よろしくお願いします。

MAKE THE HEAVEN 全体のサポート

・MAKE THE HEAVEN 会員

MAKE THE HEAVENの会員になる事が出来るスポンサー制度です。頂いたお金はMAKE THE HEAVENの各プロジェクトの活動費に使わせて頂きます。会員になって頂く事で、活動報告書や定期発行の新聞、MAKE THE HEAVEN主催のツアー・イベントの優待などをさせていただきます。

詳細：<https://39auto.biz/maketheheaven/regires.php?tno=180>

WONDERFUL WORLD 植林 FESTIVAL (ワンフェス) へのサポート

・一円募金

ワンフェスが行っている一円玉の募金制度です。集まった募金は、ワンフェスが行っている植林活動の苗木代に使わせて頂いています。

詳細：<http://www.wonderful-world-syokurin.org/entry/?section=1>

・フォレストふぁみりー

世界中の人たちとワンダフルな世界を創るため、笑い楽しみながら動き緑を増やす仲間を募集しています。ツアーの参加者や1円を集めるヒーロー、マンスリースポンサーを「フォレストふぁみりー」と呼び、小さな一歩の応援を行っています。お預かりさせて頂いたスポンサーのお金はワンフェスの活動運営費に使わせて頂きます。

詳細：<http://www.wonderful-world-syokurin.org/wecan/?p=11900>

他にも、東北植林の育苗支援「森モリオーナー」や、あなたの代わりに砂漠に木を植える「マイツリー」などの支援も募集しています。詳しくはワンフェスのHPをご覧ください。

ワンフェス：<https://www.wonderful-world-syokurin.org/wecan/>

TEAM A☆H☆O

平成28度から新しいプロジェクトが加わりました。挑戦を通して、誰かの勇気や幸せのきっかけを作っていきます。応援よろしくお願いします！！

TEAM A☆H☆O ホームページ <http://masaod35.wix.com/team-aho>

TEAM A☆H☆O サポート

TEAM A☆H☆O ハッハッハファミリー

一歩を踏み出すきっかけ作りを作っていきます。応援よろしくお願いします。

・<https://39auto.biz/maketheheaven/regires.php?tno=341>



2015年 会計報告

活動計算書

27年1月1日から 27年12月31日まで

(単位:円)

科目	金額		
	特定非営利活動に係る事業	その他の事業	合計
I 経常収益			
1. 受取会費(注1)	1,962,412		1,962,412
2. 受取寄付金(注2)	20,404,003		20,404,003
3. 負担金収入	914,175		914,175
4. 収益事業収入		18,953,316	18,953,316
経常収益計	23,280,590	18,953,316	42,233,906
II 経常費用			
1. 事業費			
(1) 人件費			
給料手当	6,360,000		6,360,000
人件費計	6,360,000		6,360,000
(2) その他経費			
外注費	6,598,946		6,598,946
負担金	0		0
寄付金支出	0		0
運賃	228,989		228,989
旅費交通費	8,834,763		8,834,763
通信費	1,402,335		1,402,335
消耗品費	1,149,544		1,149,544
修繕費	124,672		124,672
印刷費	761,077		761,077
賃借料	957,412		957,412
保険料	172,520		172,520
燃料費	515,663		515,663
租税公課	8,000		8,000
諸謝金	1,239,720		1,239,720
光熱水料費	149,876		149,876
支払利息	0		0
地代家賃	480,000		480,000
減価償却費	0		0
雑費	1,991,391		1,991,391
貸材費	682,157		682,157
法人税等	0		0
法定福利費	0		0
その他経費計	25,297,065	0	25,297,065
事業費計	31,657,065	0	31,657,065
2. 管理費			
(1) 人件費		1,890,000	1,890,000
人件費計		1,890,000	1,890,000
(2) その他経費			
外注費		0	0
負担金	18,208,483	0	18,208,483
寄付金支出	1,969,015	0	1,969,015
運賃		16,062	16,062
旅費交通費		88,961	88,961
通信費		75,023	75,023
消耗品費		35,989	35,989
修繕費		0	0
印刷費		35,907	35,907
賃借料		0	0
保険料		0	0
燃料費		0	0
租税公課		386,400	386,400
諸謝金		0	0
光熱水料費		0	0
支払利息		319,992	319,992
地代家賃		0	0
減価償却費		33,103	33,103
雑費		1,303,094	1,303,094
法定福利費		56,726	56,726
その他経費計	20,177,498	2,351,257	22,528,755
管理費計	20,177,498	4,241,257	24,418,755
経常費用計			24,418,755
III 売上原価			
期首棚卸	1,272,867		1,272,867
仕入高	2,228,925		2,228,925
期末棚卸	1,188,889		1,188,889
売上原価	2,312,903		2,312,903
IV 営業外収益		9,001	9,001
受取利息		9,001	9,001
雑収入	1,171,797		1,171,797
V 営業外費用			
経常外費用計			
法人税、住民税及び事業税	72,000	12,684	84,684
当期正味財産増減額			△ 15,058,703
前期繰越正味財産額			18,485,616
次期繰越正味財産額			3,426,913

注1 会費収入内訳

正会員	1,885,764
マンスリーサポーター	76,648
会員収入計	1,962,412

注2 寄付金収入内訳

メイクザヘブン本部	36,408
震災支援活動	598,801
植林間伐活動	3,673,491
一円募金	37,688
パパママ大作戦	4,060,800
まいど大作戦	30,000
カンボジア支援	10,351,445
くつくま孤児院	1,615,370
寄付金収入計	20,404,003

貸借対照表

27年12月31日現在

(単位:円)

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
(流動資産)	(7,445,031)	(流動負債)	(7,833,894)
現金・預金	6,134,904	未払金	3,344,443
売掛金	44,590	預り金	381,951
未収金	76,648	短期借入金	4,000,000
商品	1,188,889	未払消費税等	35,500
		未払法人税等	72,000
		(負債合計)	7,833,894
(固定資産合計)	(3,495,776)		
土地	3,000,000	正味財産の部	
車輛運搬費	303,688	前期繰越正味財産	18,485,616
什器備品	192,088	当期正味財産増加額	△ 15,058,703
(資産その他の資産)	(320,000)	[正味財産合計]	(3,426,913)
敷金	320,000		
[資産合計]	11,260,807	[負債及び正味財産合計]	11,260,807

監査報告書

特定非営利活動法人MAKE THE HEAVENの2014年度決算について、事業は適切に実施され、また、収支計算書及び貸借対照表は、経営状況及び財政状態を適正に表示しているものと認めます。

2016年 3月30日

監事 二瓶 明

